

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-142	A-152	23-064	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Bidirectional associations between alcohol drinking and depressive symptom scores among US older adults 米国高齢者における飲酒と抑うつ症状スコアとの双方向的関連性			
執筆者			
Yu X, Gain EP, Kedia SK.			
掲載誌			
J Affect Disord. 2024 Mar 15;349:48-53. doi: 10.1016/j.jad.2024.01.004.			
キーワード			PMID
高齢集団、 飲酒、 双方向性関連、 うつ病、 ランダム切片交差ラグパネルモデル			38190853
要 旨			
<p>背景：本研究では、低～中等度の飲酒がうつ病のリスクを低下させる一方で、うつ病の発症が対処戦略としての飲酒量を増加させる、飲酒とうつ病の双方向の関連を検討する。</p>			
<p>方法：Medicare Current Beneficiary Survey (MCBS) は、米国のメディケア受給者全体を対象とした、complex survey デザインの調査で、参加者は最長 4 年間、毎年インタビューを受ける。社会人口統計データ、健康状態、投薬、医療利用に関する項目が調査され、メディケア請求データからは、入院、救急部受診、医師の診察、処方薬データを得ている。本研究は、2016 年から 2019 年の MCBS データを使用した。65 歳未満、老人ホームなどの施設に入所している人、入所後 6 ヶ月以内に死亡した人は除外した 9,849 名より、ベースライン時 (2016~2018 年) と 2 回の追跡調査時 (2017 年~2019 年) の両方で、うつ症状と飲酒量を測定した参加者に限定した (n = 4503)。また、飲酒経験がなく研究期間を通じてうつ症状のなかった者は除外した (n = 315 除外)。また、ベースライン時にうつ病を含む精神疾患の既往があり、抗うつ薬を服用していた人も除外した (n = 800 を除外)。最終的な解析対象は 3388 名 であった。アルコールについては、過去 12 ヶ月間の摂取を調査し、飲酒した場合は、1 日あたりの典型的な飲酒回数を調査し、低/中等度飲酒者 (男性 ≤ 14 飲酒/週、女性 ≤ 7 飲酒/週)、多量飲酒者 (> 14 飲酒/週) に分類した。うつについては、Patient Health Questionnaire (PHQ) を用い評価した。統計解析は、構造方程式モデル (SEM) を用い、3 回の調査について、アルコール飲酒とうつ病の間の双方向の関連を構築し、ランダム切片クロスラグパネルモデルを用いて、各回における抑うつスコアと飲酒の個人内変動の潜在変数、抑うつと飲酒のランダム切片などをモデル化し、男性と女性に分け、社会経済的地位 (SES)、喫煙、合併症はモデルで調整し、個人内因果関連を探索した。</p>			
<p>結果：過去の飲酒回数の増加は、追跡調査における PHQ スコアの中等度の低下 (統計学的には有意ではない) と関連していたが、過去の PHQ スコアの増加は、調整モデルにおける追跡調査時の飲酒回数の減少と有意に関連していた (男性では回帰係数 = -0.144、p = 0.017、女性では係数 = -0.11、p < 0.001)。</p>			
<p>結論：先行するうつ病は追跡調査における飲酒の減少につながる可能性があるが、米国の高齢者では双方向の関連は認められなかった。</p>			